

ウノ眼タカの眼

## 再生元年（2016）

安倍首相は年頭にあたり、「GDP 600兆円」、「希望出生率1.8」、「介護離職ゼロ」の3大目標を掲げ、一億総活躍で挑戦するために歳出規模3.5兆円の補正予算を組んでスタートすると表明した。この「新しい3本の矢」実現への国民の付託と期待は大きい。

東京湾アクアラインの建設に1兆5000億円（建設期間10年）を投じたことと比べても今回は大プロジェクトである。片や焦眉の急の同時進行で、東電福島第一原発事故の福島県の除染費用が政府試算で2兆5000億円。国立研究法人・産業研究所は最大5兆1000億円と政府試算の2倍を見込んでいる。すべて東電負担だが、特別措置法で、費用が確定するまでは復興特別会計による国の建て替えである。

更に、除染廃棄物の中間貯蔵施設（最大30年間）の建設が頓挫しているので、国の負担する仮置き場の土地賃貸料が膨らみ続けている。

福島県内の仮置き場の国直轄の除染地域分だけで、27年度分は約20億7000万円（仮置き場総数 約11万4800カ所）。24年度～27年度累計では約46億円で先が見えない。

以上に加えて、東京オリンピック・パラリンピックの建設が重なる。人手不足も重なって必要経費はうなぎ登りは必定。GDP 600兆円を思惑通り達成すれば自ずと道は開けようが、万一、それが未達の場合に、国の負債は更に積み重なり、将来への大きな禍根を残すことにならないようにと祈るばかりである。

国の借金と見返りに、GDPが一見増えたように見えても、花見酒の経済では世界の荒波に長期的には堪えられまい。

わが国は、経済成長最優先の社会はカネと効率本位で人心が荒廃する必然性をすでに歴史で学んでいる。科学技術の行き過ぎに竿をさすりベラルアーツを軽視し、実学に短視眼的に偏重する教育改革は、その真意をしっかりと確かめつつ取り組むことも肝要であろう。

「喉元過ぎれば暑さ忘れる」に処するには、「温故知新」で望むのが人智の常道であろうか。